

ロジスティクス環境会議
第2回省資源ロジスティクス推進委員会

2004年2月17日(火)10:00~12:00
芝パークホテル 別館2F アイビー

次 第

1. 開 会

2. アンケート集計結果の報告
 - 1) 問題抽出アンケート2次集計結果の概要

 - 2) 活動内容等に関するアンケート集計結果の概要

3. 議 事
 - 1) 省資源ロジスティクス推進委員会の活動内容について

 - 2) 今後の委員会運営について

 - 3) その他

4. 閉 会

【配布資料】

- 資料1 : 第1回委員会議事録
資料2 - 1 : 問題抽出アンケート2次集計結果の概要
資料2 - 2 : 活動内容等に関するアンケート集計結果の概要
資料3 : 正副委員長ミーティングの検討内容と委員会の議題と(合意形成)したい項目
参考資料 : 物流共同化マニュアル(一部抜粋)

以 上

ロジスティクス環境会議

第 1 回省資源ロジスティクス推進委員会 議事録

・ 日 時：2004年1月26日(月) 14:00～17:00

・ 場 所：東京・港区 芝パークホテル 別館2F アイビー

・ 出席者：46名(別紙出席者一覧 参照)

・ 議 案：

- 1) 省資源ロジスティクス推進委員会の活動内容について
- 2) その他

・ 開 会

定刻、徳田事務局長により、開会が宣された。

・ 主催者挨拶

稲束専務理事より、会議の設立経緯ならびに設立趣旨と本会議の活動の中で、各メンバー間の合意形成のもとに、サプライチェーン、更にはリバースチェーンの最適化を支えるロジスティクスの概念、方向性、役割が明確となり、今後の社会、経済活動の中で有益な指針に繋がる提言や企業活動の中で役立つツール等が成果として作成されることを期待する。また、約3年の委員会活動で成果を出すためには、継続性のある議論を行うことが必要であり、委員会の出席メンバーは可能な限り同じ方々に参加いただきたい旨の挨拶が行われた。

・ 委員紹介

山本委員長、魚住副委員長、軽部副委員長の挨拶に引続き、各委員より自己紹介がなされた。

・ 設立後の経過報告について

- 1) ロジスティクス環境会議の概要について【資料1-1、資料1-2】

事務局より、資料1-1に基づき、ロジスティクス環境会議の設立経緯、資料1-2に基づき、ロジスティクス環境会議の概要と運営体制について説明が行われた後、確認がなされた。

- 2) ロジスティクス環境会議設立後の経過報告について

【資料2-1、資料2-2、資料3】

事務局より、資料2-1に基づき、ロジスティクス環境会議設立(2003年11月13日)後の企画運営委員会の開催および第1回企画運営委員会の議論に基づき行われた、各委員会の正副委員長ミーティングの開催経過の報告が行われた。また、資料2-2に基づき、第1期(2003年11月～2006年3月)に議題(合意形成)としたい項目と内容(例示)について説明が行われ、各委員会ならびに全メンバーが環境会議全体としての方針、アウトプット(成果)、目標等について認識を共有したうえで、今後の具体的な活動を推進したい旨の説明が行われた。

引続き、事務局より、資料3に基づき、環境会議の全メンバーに対して行われた、問題抽出アンケートの結果の報告が行われた。

・議事の経過

1. 議 事

山本委員長の司会進行のもと、以下のような議事が行われた。

1) 省資源ロジスティクス推進委員会の活動内容について【資料3】

山本委員長より、資料3に基づき、正副委員長ミーティングの検討内容と委員会の議題と(合意形成)したい項目について説明がなされ、以下のような意見交換がなされた。

【意見交換の主な内容】

(1) 運営面に関すること

【委員】省資源ロジスティクスのあるべき姿を明確にしたうえで、具体的な活動に入った方が良いのではないかと。

【事務局】環境という切り口でロジスティクスを捉えるのは始まったばかりであり、ロジスティクスの視点から各物流プロセスのボトルネックを把握し、議論するための基盤をつくった後、あるべき姿を議論し、提示していきたい。

【委員】委員会活動の中で、事例紹介の時間も設けて欲しい。

【委員】アウトプットを作成するための作業は、委員が分担して行うのか。

【事務局】活動の基本的な方針やアンケート等の企画段階でご意見をいただいたくことはあっても、集計等の作業を委員の方をお願いすることは考えていない。

【委員】当委員会での活動が具体化するに従い、源流管理による環境改善委員会との棲み分けが難しくなるのではないかと。

【事務局】委員長の説明のとおり、現状の企画運営委員会の見解としては、「源流」は各企業の活動を主体とし、「省資源」については、企業間の活動を主体としているが、委員長の発言にあったとおり、環境会議全体として漏れが無い様にするのを重要視しており、必要があれば、都度、各委員会の委員長で構成される、委員長ミーティングの場で調整を図る予定である。

(2) 活動テーマ、内容に関すること

【委員】省資源ロジスティクスという広い範囲にわたって議論するにあたって、ロジスティクスの全体最適の切り口と輸送、包装という各物流機能の部分最適のバランスを考慮する必要があるのではないかと。例えば、全体最適の視点から、包装資材を軽減する動きの中で、モーダルシフト(ここでは海上輸送)を行うことによって、貨物を保護するために製品を保護するために包装に手間をかけるなどもある。

【委員】海外の事例収集を行うことも必要ではないかと。

【事務局】海外の事例収集については、企画運営委員会の中で、検討させていただきたい。

【委員】アウトプットとして、事例集があげられているが、物流と環境をテーマとした、具体的な対応策まで参照できる、関係者のパイプになるようなものにしていきたい。

【委員】物流の環境活動について、各社のノウハウを相互に提供し、委員メンバーの強い連携に基づいた活動を期待している。

【委員】問題抽出アンケートの結果から、サプライチェーンに関わる企業間の取引条件、物流サービスが問題点として大きくフォーカスされている。これは業界の問題でもあるが、荷主企業の立場としても、当委員会でも物流企業との建設的な意見交換を行い、問題解決につなげていきたい。

【委員】共同配送も各メンバーの課題として多くあげられている。共同配送を推進するため、現状の課題の洗出しや条件整備を行い、当委員会から具体的な事業を立ち上げてみたい。

【委員】物流企業の立場として、モーダルシフトを推進しているが、遅々として進まない状況にある。ガイドライン等は是非作成したいが、つくったものを各企業に啓発、普及するという視点も重要ではないか。

以上のような意見交換が行われた後、山本委員長より、具体的な委員会活動内容等について検討を行うにあたり、当委員会の活動を通して、各メンバーが期待するアウトプット等を具体的に把握するため、アンケート調査を行うことが全会一致で了承された。

また、具体的な内容については、正副委員長ミーティングにおける検討のうえ、アンケートを行い、委員メンバー各位には、1週間程度で回答いただくことが併せて確認された。

2) その他

今後のスケジュールについて

第2回委員会は、次のとおり開催することが確認された。

日時：2004年2月17日(水) 10:00～12:00

会場：芝パークホテル 別館2F アイビー

2. 閉会

以上をもって全ての議事を終了し、山本委員長は閉会を宣した。

以上

問題抽出アンケート 2次集計結果の概要

1. 2次集計について

1 件の回答が複数の委員会の検討課題(テーマ)として取扱われることが望ましい場合も考えられるため、これに対応した2次集計を行った。

2. 回答数 58社 / 110社 (2004.1.15 現在) 1次集計と同様

回答率 52.7%

回答件数 95件 優先順位 1位、2位の回答を含む

3. 省資源ロジスティクス推進委員会に該当する内容

1) 1次集計 : 48件 / 95件 (50.5%)

2) 2次集計 : 53件 / 95件 (55.7%)

4. 省資源ロジスティクス推進委員会に関わる主な問題点

2次集計結果による、付加する項目は特に無し。

1) 発注企業と受注企業間の商慣行、取引条件(物流サービス)

(1) 梱包仕様

(2) リードタイム

(3) 発注ロット

(4) コスト負担

2) 物流インフラ(ソフト、ハード)

(1) モーダルシフトの基盤整備

貨物ダイヤ、船の出港時間と航行速度等

(2) 共同物流を円滑にする情報基盤

3) 法規制

(1) 業界共同化を阻害する「独占禁止法」の弊害

5. 集計結果からみる、当委員会におけるテーマのニーズ

1) モーダルシフト・・・17件

2) 省資源化・・・・・・・・5件

3) 共同物流・・・・・・・・5件

4) ユニットロード・・・2件

パレチゼーション含

5) その他

企業間における取引条件(物流サービス等)に関しては、上記の1)から4)を推進する際の制約条件(問題点)としての位置付けにあると読み取れる。

以 上

活動内容等に関するアンケート集計結果の概要

- 1 . 回答数 21 社 / 58 社 (2004.2.12 現在)
 回答率 36.2%

2 . 活動テーマ

- 1) 共同物流 15 件
 2) モーダルシフト . . . 13 件
 3) 省資源 11 件
 4) ユニットロード . . . 1 件
 5) その他 2 件

3 . アウトプット

- 1) ガイドライン . . . 14 件
 2) 事例集 11 件
 3) 提言 10 件
 4) その他 10 件

(1) 省資源活動の成果を客観的に表す指標の開発

輸送、積載、包装資材、保管、返品、流通加工など物流に関わる全ての活動を、最終的に CO₂ の排出量に換算する手法を開発し、これを省資源活動の成果を測定する共通のスケール (例えば CO₂ 換算削減量) とすることが出来れば、サプライチェーン全体の評価をすることが可能となる。

モーダルシフト、包装の簡易化、通い箱の導入、積載・輸送効率の改善などを一定の計算式で CO₂ 排出量の削減値として導き出す手法。

(2) 改善対応の物流指標・物流デ - タベ - ス

(3) 物流業における A B C (活動基準原価計算) の研究

無駄な作業の削減 効率的な輸送

(4) モーダルシフトに関するインフラ整備、コンテナ開発

(5) 低公害車の普及支援

(6) CO₂、NO_x 削減効果の定量測定方式の標準化

(7) 出荷伝票類の省資源化

・出荷伝票を無くしたいという活動をしていきたい。

紙の伝票 伝票レス ノン伝票 という流れが考えられる。

例えば、受領書の押印がないとダメという考え方から進まなかった。

電子認証にして紙を一切なくしていきたい。

(8) 共同物流を推進するための人的ネットワーク (その後システムに移行) の形成。

(9) 現在、環境に関する様々な規格・基準がある (ISO14001、エコステージ、グリーン経営認証制度、エコアクション 21 …)。これらの規格・基準に対し、物流業界として実施すべき方向性を明示したい (規格・基準がたくさん有るのはいいが、どれを実施すればより効果的なのか)。

(10) 省資源阻害要因と対応マニュアルの作成。

4. その他

- 1) 全ての委員が、同じだけ汗をかき、同じだけ成果を得ることが委員会運営上重要と考えます。
- 2) 今回のアンケートテーマをたたき台にテーマを類型化し、分科会を設け掘り下げていけばいいのではないのでしょうか。
- 3) 総論では賛成できるが、各論では課題山積み、というような結論にならないよう、十分な議論をお願いしたい。
例えば、排ガス規制はしたが、トラック不足、中小事業者の廃業により結果として、コストアップになってしまう、といったことがないように。
- 4) 行政サイドの積極的参加も必要と思う。
- 5) J I L Sで昨春グルーピングした部会に、共通課題として業界としての意見を求めても良いかと思う。
- 6) 半期ベースで委員会のスケジュールを作成して頂きたい。
- 7) 2つの委員会に登録させていただいているが、委員会の開催スケジュールによっては常時参加が不可能な場合もあり、代理メンバーの登録(極力固定)を考慮願いたい。

以上

省資源ロジスティクス推進委員会

正副委員長ミーティングの検討内容と委員会の議題(合意形成)としたい項目

正副委員長ミーティングによる議論を踏まえ、今後の進め方に関する内容を検討した。

1. 正副委員長ミーティングによる主な検討内容と課題の整理

- 1)開催日時：2003年12月4日(木)16:00～18:00(第1回)
2004年1月15日(木)16:00～18:00(第2回)
- 2)会場：JILS会議室(第1回)、芝パークホテル(第2回)
- 3)メンバー：委員長：(株)日通総合研究所 山本 明弘 (敬称略)
副委員長：味の素(株) 魚住 和宏
" (株)日立物流 軽部 熊次郎
- 4)議 事：(1)問題抽出アンケート結果について
(2)活動の方針・目標・計画について
(3)今後のスケジュールについて
(4)その他

5)主な検討内容と課題

(1)本委員会に関する検討内容と課題

大気汚染問題は自動車等の単体規制に関連する部分が強いため、本委員会の活動範囲としては、輸配送効率化の視点で取り組むべきである。また、アイドリングストップや低公害車については、別枠で扱った方が良いのではないかと。

本委員会の中心テーマとしては、複数企業間における省資源包装、省エネルギー輸送、特に特にモーダルシフト、共同物流、ユニットロードやパレチゼーション等の問題に焦点を当て、活動しても良いのではないかと。

本委員会のアウトプットとして、各社の環境活動を調査し、事例集を作成しても良いのではないかと。その際、活動の範囲やモードについて明確に分かるようなアンケートフォームを作成し、委員メンバーにアンケートを行った方が良いのではないかと。

アンケート結果から大きな課題として、荷主企業と物流企業間の物流サービス等の取引条件是正が挙げられている。荷主企業、物流企業の双方のコミュニケーションを図り、環境負荷を低減するためのガイドラインが必要ではないかと。

委員会では、情報共有を活発にするためにも、議案の議論を行うだけでなく、各企業がPRする時間を設けても良いのではないかと。

委員会メンバーも多いため、運営方法としてはテーマ別等による分科会を構成した方が良いのではないかと。

(2)各委員会にも関連する検討内容と課題

アンケート結果の問題点にもあるように、共同物流を進めようとする、独占禁止法の問題にあたり、活動が制約されるケースがあるため、現状を調査したうえで、関係省庁に提言を行う必要もあるのではないかと。

委員会を離れた場でもメンバー間のコミュニケーションを図りやすくするためにも、メンバーの連絡先の名簿を配布するべきではないかと。

2. 委員会の議題(合意形成)としたい項目

2-1. 委員会の議題(合意形成)としたい項目

本委員会にて検討された内容は、「委員長ミーティング」にて委員会間の調整を行う。

- 1)方針
- 2)委員会の進め方
- 3)アウトプット(成果)
- 4)目標
- 5)スケジュール

2-2. 正副委員長ミーティングからの提案(委員会の議題(合意形成)としたい項目と内容の例示)

1)方針

省資源・省エネルギーの視点から、サプライチェーンを構成する各企業が一体となって物流の環境負荷を低減するモーダルシフトや共同物流等の活動促進を図るため、物流活動の事例収集を行い、関係者間の情報交換および公開すると共に、関係者に対する提案を行う。

2)委員会の進め方の留意点

(1)メンバー間の問題点の共有と課題の整理

問題抽出アンケート結果を踏まえた意見交換

【課題となるテーマ(例)】

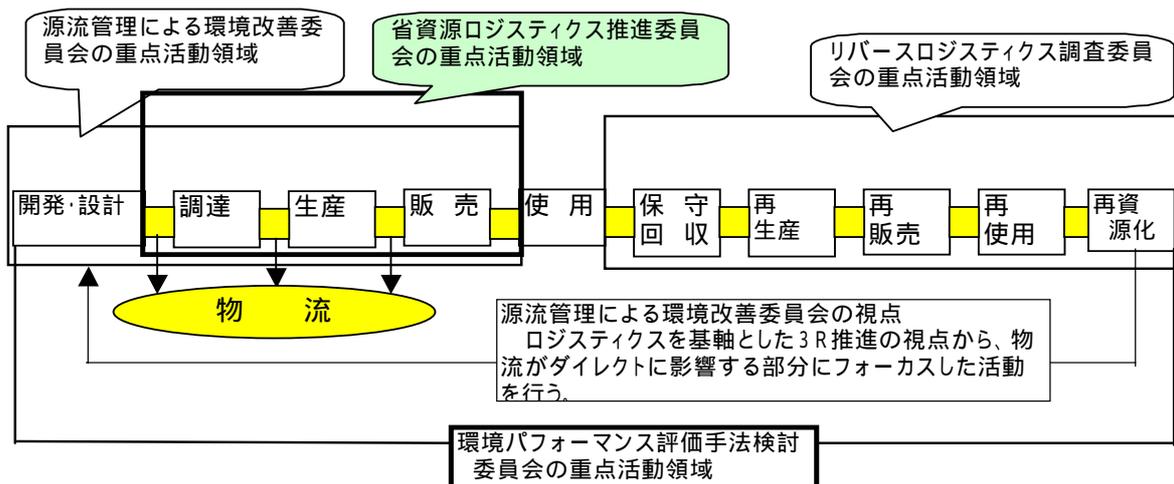
- ・省資源包装 輸送上の包装保護と緩衝
- ・省エネルギー輸送
モーダルシフト、共同輸配送(帰り便等の地場配送含)、
ユニットロード(パレチゼーション含む)
- ・その他

(2)省資源ロジスティクス推進委員会の活動範囲の検討と合意形成

本委員会と源流管理による環境改善委員会との棲み分け

省資源ロジスティクス推進委員会・・・複数企業間、業際間主体の活動

源流管理による環境改善委員会・・・個別企業主体(荷主企業・物流企業)の活動



3)アウトプット(成果)

- (1)企業(間)の各種物流施策の事例集の作成
編集方針(内容、範囲、用途の検討)の検討
- (2)ガイドラインの作成
複数企業間、業際間の各種物流施策に対する課題の整理
省資源ロジスティクスを推進するための方針のまとめ
物流施策別の評価手法の作成(コスト・時間に環境のパラメータを加える)
輸送モード(鉄道・船・トラック等)、配送パターン(共同配送等)、車種別等の組み合わせ
事前にサプライチェーン上の何処にボトルネック(負荷)があるのか、検証が必要
- (3)提言の作成
行政 産業界 消費者 その他
各委員会の提言内容は、企画運営委員会にて集約し、まとめる。
- (4)その他

4)目標

- (1)企業(間)の各種物流施策の事例集の作成・・・2004年10月
- (2)ガイドラインの作成・・・2005年10月
- (3)提言の作成・・・2005年12月

5)スケジュール

	2003年			2004年		
	11月	12月	1月	2月	3月	4月
1. 本会議	第1回 11/13					第2回 4/下旬
2. 企画運営委員会	第1回 11/13		第2回 1/9(金) 15-17時			
3. 正副委員長ミーティング		第1回 12/4(木) 16-18時	第2回 1/15(木) 16-18時			
4. 省資源ロジスティクス 推進委員会			第1回 1/26(月) 14-17時	第2回 2/下旬	第3回 3/下旬	
1)方針・目標・活動計画			←————→			
2)事例の収集と分析	2004年度				————→	
3)事例集の作成と公開	2004～2005年度					
4)ガイドラインの作成と公開	2004～2005年度					

以上

